

HOT & COOL

サイエンスカフェへ ようこそ!



福岡市科学館における対話型イベントの取り組み

開催場所：福岡市科学館

開催頻度：月1回程度

URL：<https://www.fukuokacity-kagakukan.jp/>

問い合わせ先：福岡市科学館 092-731-2525

福岡市科学館は2017年10月に九州大学六本松キャンパスの跡地にオープンしました。オープン前の2016年7月から2019年3月までの間、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の科学技術コミュニケーション推進事業・問題解決型科学技術コミュニケーション支援の助成を受け「福岡市科学館を核としたくらしと科学の共創ネットワーク拠点づくり」をテーマに活動しました。ここでは、このJST事業でおこなった対話型イベントについて、いくつか具体例を紹介します。

一つ目は2017年におこなった「動物の幸せとは？」の予習編と実践編です。予習編で、大牟田市動物園でおこなわれている「科学的根拠に基づいた、動物福祉に配慮した飼育管理」の実例を同園の獣医師さんにお話いただき、実践編で動物園の現場で取り組みを体感する、というもの。動物・幸せ・科学の組み合わせは不思議に感じるかもしれませんが、動物虐待でのSNS炎上や動物愛護法の改正、プラスチックごみによる野生動物への影響などを考えると、私たちの生活に関係する「今日の課題」につながるテーマになります。実際、参加者は「幸せにはいろいろな形があって答えはない。それでも考え続けることが大切」「食べる動物の幸せを考えると難しい」など、それぞれの視点で意見交換をし、答えのない問いに向き合う様子が印象的でした（右上の写真参照）。

二つ目は、2018年に実施した「プロトセルー生命らしい技術のお話とその未来ー」の自走編と分裂編。プロトセルとはプロト（最初の、原始の）とセル（細胞）を合わせた言葉で、生命の起源を探る研究において用いられる細胞のモデルの一つで、イベント中で生成実験もおこないましたが、主眼は最先端の研究分野の若い世代への紹介と、その技術の可能性や未来への展望

について、研究者と参加者が対話をするということでした。これはゲストの希望でもあり、質問カードを用いて「生命ら

しさとは？」「この技術でどんなことがしたいか？」などを中学生・高校生・大学生・大人が一緒になって考えました。ただの油滴が動き出す、その様子を目の当たりにすると、物質と生命の違いはなにか？ といった深遠なテーマ・問いが、一気に自分のものとして湧き上がってきます。参加者から率直なコメントを得ることは、研究者にとっても大変刺激的でヒントをもらうこともあるそうです。

三つ目は、サイエンスカフェというには規模が大きいです。対話型イベント「SDGs×福岡市科学館ーみんなで考える未来のくらしの作り方ー」で、2019年におこないました。基調講演からパネルディスカッションまで5人の専門家やコーディネータに参画いただき、参加者は小学生からシニアまでの121人が、25グループに分かれての対話を数回はさみながら、それぞれの視点でSDGsと普段のくらしをつなげる議論を深めました。グループに配られた模造紙はどれもたくさん書き込みがあり、参加者それぞれが気づきを得られた満足感が伝わってくるものになりました。

企画実施をしてきて改めて感じたことは、さまざまな世代の人が、科学をキーワードに集い、一人の人として対等に、今と未来につながる対話をすることの重要性和、科学館がそのためのプラットフォームになるのではないか、ということです。それはただ楽しむためであったり、課題解決につながったりもするでしょう。科学が教科ではなく、ますます身近で生活に欠かせないものになるこれからの時代に、科学館やサイエンスカフェでできることを日々考えています。

文◎ 針谷 亜希子（福岡市科学館 企画開発チームリーダー／国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター）

〈これまでの成果やイベントの紹介〉

福岡市科学館 サイエンスWAO

<https://www.fukuokacity-kagakukan.jp/wao/>

JST 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化
ファンディング 進行中のプロジェクト

https://www.jst.go.jp/sis/funding/insupport/#cate_10

科学技術の最新情報を提供する総合WEBサイト

https://scienceportal.jst.go.jp/reports/other/20190404_01.html

